

★今月の星もよう★

7月も後半になると梅雨明けし、夜空では夏の星座が主役になってきます。春の大三角は西の低い空に移って、夏の星座は東の空の高い位置に昇ってきます。こと座の1等星ベガ、わし座の1等星アルタイル、はくちょう座の1等星デネブをつないでみましょう。大きな三角形は夏の星空の目印です。

南の方角にはさそり座があり、赤い1等星アンタレスがサソリの心臓の位置で輝いています。日本では昔からS字を描いたその形が釣り針に似ていることから、「魚釣りぼし」と呼ばれています。ちょうど天の川の中にあり、いかにも天の川で釣りをしているように見えませんか。サソリの頭の西側にあるてんびん座は、元々さそり座の一部で、サソリのはさみの部分であったため、てんびん座 α 星(四角形の右上の星)は「南の爪」、てんびん座 β 星(四角形の左上の星)は「北の爪」という名前がついています。

北の方角には北斗七星を小さくしたような形のこぐま座が見やすい位置に来ています。北斗七星をひっくり返した形をイメージすると見つけやすいでしょう。こぐま座のしっぽの先端の星は、一年中位置を変えない北極星です。真北の方角を知る目印として役立つ星なので、ぜひ探してみてください。

★七夕(たなばた)と暦★

7月といえば七夕を思い浮かべる方も多いでしょう。織姫はこと座の「ベガ」、彦星はわし座の「アルタイル」であり、その二つの星の間に天の川が流れています。季節は梅雨真っただ中。毎年七夕には雨が降ると言われたりもしています。では、なぜ天気の良い季節に星にまつわる物語が出来たのでしょうか。

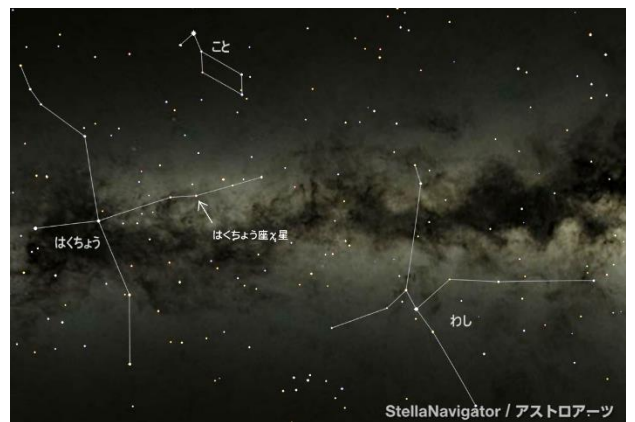
実は、現在の7月7日は、古来の七夕の7月7日とは時期が異なります。現在私たちが使用している太陽暦(グレゴリオ暦)は、日本では明治6年から使用され始め、それ以前は旧暦と呼ばれる太陰太陽暦が使用されていました。太陰とは空の「月」のことで、新月を1日、三日月を3日としていたので、ちょうど7月7日は上弦(半月)の頃になります。現在国立天文台が旧暦七夕を伝統的七夕という名前で報じており、今年の伝統的七夕は8月10日にあたります。梅雨も明けて夏空が広がる時期となりますので、ぜひ8月も織姫と彦星を観察してみてください。



★天文現象トピックス★

今月は「はくちょう座」を結ぶ星座線に変化が現れそうです。はくちょう座の首元にある χ 星は、408日の周期で明るさが14.2等から3.3等まで変化する「変光星」と呼ばれる星です。この星は、恒星の進化の最終段階である「赤色巨星」で、膨張と収縮を繰り返すことで明るさが変化する「ミラ型変光星」に分類されます。(ミラ型とは、くじら座の変光星ミラに由来します。)

今年は7月20日頃に極大(最も明るくなること)を迎えると予想されていますが、周期がずれることや、3等まで明るくならないことも予想されます。ちょうどはくちょう座が空高く上がって見やすい時期ですので、双眼鏡などを使って観察してみましょう。

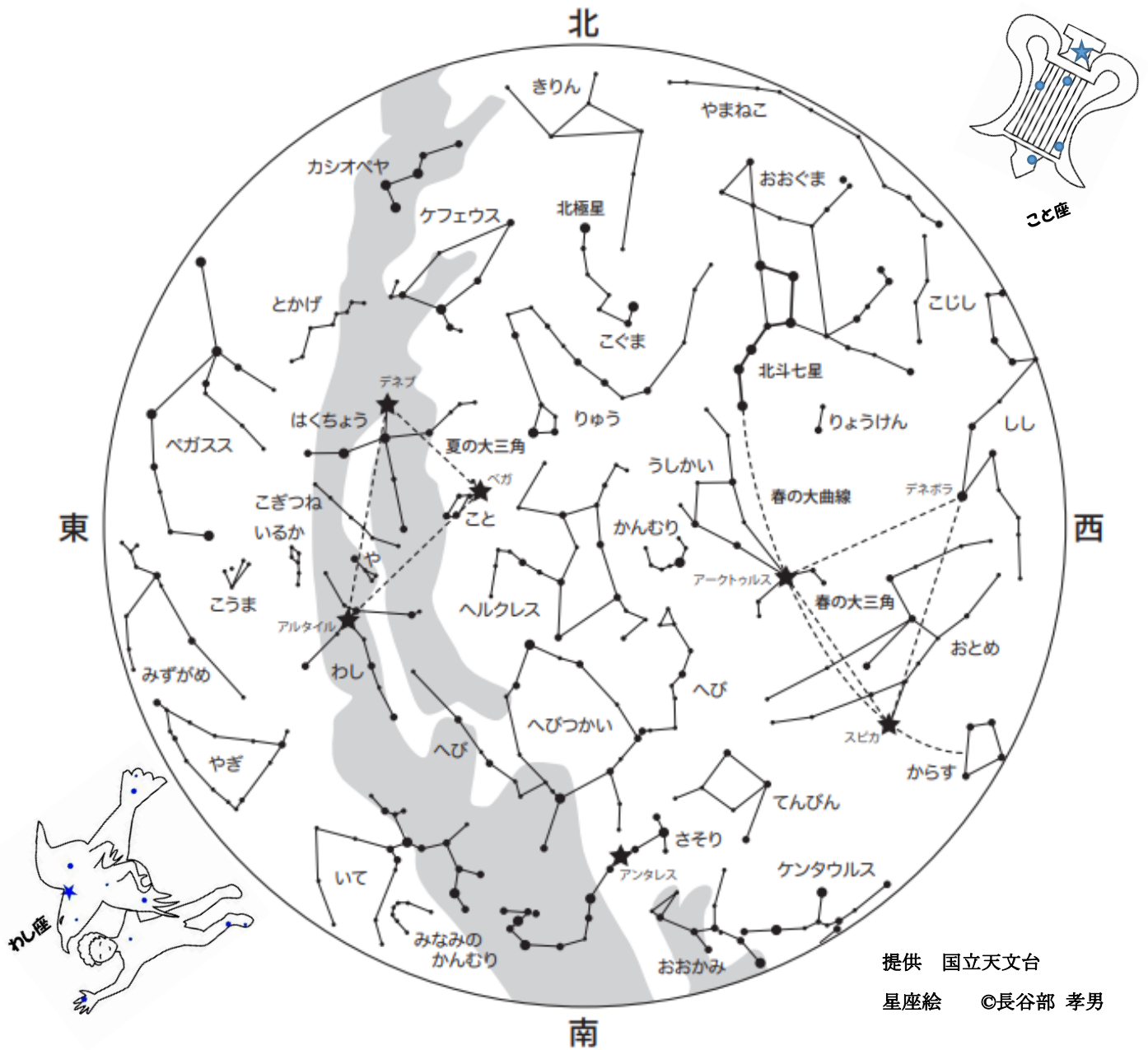


☆7月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください



☆プラネタリウムのお休み 7/1(月)、8(月)、11(木)、12(金)、16(火)、17(水)、22(月)、29(月)

7月中旬午後9時頃の星空



提供 国立天文台
星座絵 ©長谷部 孝男

★ 7月の主な天文現象 ★

6日(土)	● 新月
14日(日)	● 上弦
21日(日)	● 満月(バックムーン)
22日(月)	水星が東方最大離角
25日(木)	土星食(白昼の)、土星と月が大接近
28日(日)	● 下弦
31日(水)	みずがめ座δ南流星群が極大

7月上旬～中旬、夕方^{じゅうじゅん}の西^{ちゅうじゅん}の空で水星^{ゆうがた}が見やすくなっています。日没後^{にしちつご}30分頃^{さんじゅうご}の高度^{こうど}が10°くらいで1等星ほどの明るさ^{あか}があります。下旬^{げじゅん}は高度もさがり^さ見つけにくくなります。

